



英知
誠実
健康
学校だより

若 鷹

尾張旭市立旭中学校

平成25年度 11月号

「人権！」



まもなく12月になります。12月は「師走（しわす）」とも言われています。「師走」とは、「坊さんが忙しく走り回る」「師匠が忙しく走り回る」「漁師が忙しく走り回る」など諸説あるようですが、いずれにしても普段よりも慌ただしく走り回り、仕事を残さず年内中にやり終えるということのようです。

さて、「第65回人権週間」は、例年通り12月4日（水）から始まります。しかし、今年はこれまでの実施内容を踏まえ、更なる人権尊重の精神を培うため、12月2日（月）から20日（金）までを「人権月間」として取り組むことになりました。

中学生の皆さんなら「人権」とは、人としての権利だということはおわっていると思います。

これからの人生、皆さん一人一人に人権があるからこそ、社会に必要とされるように生きなければなりません。

私たちの身の回りを見たとき、知らず知らずのうちに、友達の人権を傷つけてしまっていることはありませんか。自分の人権が傷つけられていると思うときはありませんか。それを判断するには、自分がされたら嫌なことなのかを考えてみることです。

「己の欲せざる所は、人に施すこと勿れ」（孔子のことば）

自分が他人からしてほしくないことは、他の人も同じように、嫌だと思ふのだから、そのようなことをしてはならぬ、という戒めです。

友達にしてはいけないこと、言うてはいけないことを、自分を基準に考えてみる機会にしてください。何事も相手の身になって考える！

※12月6日（金）体育館で「人権集会」を予定しています。

旭中学校長 大竹良寿

文化発表会 2013 合唱発表



「中学生の合唱は、聴く人にメッセージを伝えることができたかが大切」これは、合唱発表の講師をお願いしました前旭中学校長 渡辺安正 先生から伺った言葉です。プロでもない、合唱部でもない中学生のクラス合唱は、合唱の美しさや表現力ではなく、聴く人がメッセージを感じることができる合唱であることが重要であるということです。歌い手の想いがメッセージとして伝われば、聴き手は感動します。その感動が次の行動へのエネルギーとなって行きます。今年は2年ぶりに文化会館での開催になりました。1年生だけでなく、2年生にとっても初めての舞台です。学

校の体育館とは違った雰囲気、慣れない場所のため、緊張もさらに高まったと思います。その中で、全てのクラスですばらしい歌声を聴くことができました。約1か月の練習しかなく、どこまで自分たちはできるのか不安もあったと思いますが、文化会館の大ホールに響いた歌声には、それぞれメッセージが込められていました。2学期に入って体育大会から文化発表会へと、各クラスがいろいろな経験を通して充実してきたことと思います。今のクラスのメンバーになった偶然はあと5か月で終了します。今の時間を大切に、今の仲間を大切に、それぞれの中学校生活を充実したものにしていってほしいと思います。

旭祭<あさフェス>「絆~cross~」

午後の部、生徒会企画「あさフェス」のステージ発表は、生徒たちのエネルギー溢れるものでした。それぞれの発表が工夫され、全校生徒が一体となって楽しむことができ、テーマの絆が縦にも横にもつながっていったと思います。

吹奏楽部のオープニング演奏から始まり、科学部のサイエンスショー、生徒会執行部のベルマーク集計結果の報告、旭中カルタの発表、有志発表と続きました。

旭中カルタは、全クラスで取り組み、様々な角度から母校を見つめ、表現されていました。一人一人が旭中学校を母校として、誇りがもてる時間であったと思います。



駅伝部 女子4年連続県大会出場

夏から走り込んできた駅伝部が、11月2日(土)の愛日大会において女子が5位となり、県大会出場を決めました。11月16日(土)新城総合公園(陸上競技場)で開催された県大会では、力強い走りを見せ、21位(出場50校)と昨年より順位を上げ、愛日地区の出場校では2位でした。出場した選手が精一杯頑張った結果であると同時に、一緒に練習してきた仲間とともに作り上げた成果です。特に3年生は、限られた時間の中で下級生を引っ張り、練習に励んでいました。下級生は、3年生の姿勢をしっかりと受け継ぎ、来年へタスキを、「絆」をつないでいてほしいと思います。駅伝部は年度途中に募集し、集まったメンバーでの活動となります。短い期間での活動ではありますが、ご家族を含め、多くの支えに感謝いたします。ありがとうございました。



部活動 新人戦速報

愛日大会出場：ソフトボール部、女子バレーボール部

県大会出場：女子ソフトテニス部、女子バスケットボール部

市PTA交通安全街頭活動

12月6日(金)

午前7時45分~8時30分

※ 自宅付近で子どもたちに声を掛けるなど、できる範囲での活動にご協力を。